

移民と共に 涙の100万丁

フタバ

ギアリンクス、日系社会と豆腐で被災地支援

「どう今年の出来は？」「品質は良さそう。あとはもう少し雨が降ってくれば」。南米パラグアイ東部の日本人移住地イグアス。地平線まで続く広大な大豆畑の真ん中で、美濃加茂市の食料輸入会社ギアリンクスの社長、中田智洋(61)と日系農家が空を見上げた。

日系人約7千人が暮らすパラグアイの中でも、昨年入植50周年を迎えたイグアスは移民1世が多い。広場に真っ赤な鳥居が建ち、スーパーにはみそやしょうゆが並ぶ。「公用語」は日本語だ。イグアス農協の組合員90人は全員が日系。密林を苦勞して切り開いた農地は1人平均270秒に及び、大豆や小麦、トウモロコシを栽培する。

大豆畑でイグアス農協組合長の日系2世、久保守(左)と語り合う中田智洋。久保も中田の薦めに応じて日本向け大豆生産を始めた。パラグアイ東部イグアス移住地



産、販売してきた中田は2000年、将来の食糧不足を見据え、南米で穀物を調達しようとギアリンクスを立ち上げ、アルゼンチンで大豆農場を始めた。社名には、岐阜と同国をつなぐ意味を込めた。だが、緊急時の食糧確保には、自社農場だけでは不安が残る。そこで目を付けたのが、イグアスだった。

「故郷に錦を」と。その一人、福井一朗(47)は「いつか日本に売って、祖國とつながりたい」という気持ちがあつた」と、栽培を続けていた理由を語る。

福井は日本の商社と取引したこともあるが、「粒がふさふさいだとか、傷が付いているとか、国産と違ってしまう」とか、中田の話を聞いても、日系農家の反応は「どうせまた失敗する」と冷ややかだった。

「提示価格よりも高く買上げ、非遺伝子組み換え大豆の生産拡大を促した。思いは通じて、イグアスの非遺伝子組み換え大豆生産量は23年に急増、日本への輸出も03年の約300トから昨年は約3千トに増えた。

世界の大豆の約8割が、害虫や除草剤に強い遺伝子組み換え大豆だ。日本の消費者の間では安全性への懸念が強い。中田が取引を持ち掛けた02年当時、イグアスでは3人が、非遺伝子組み換え大豆を少量ながら作っていた。

「故郷に錦を」と。その一人、福井一朗(47)は「いつか日本に売って、祖國とつながりたい」という気持ちがあつた」と、栽培を続けていた理由を語る。

「提示価格よりも高く買上げ、非遺伝子組み換え大豆の生産拡大を促した。思いは通じて、イグアスの非遺伝子組み換え大豆生産量は23年に急増、日本への輸出も03年の約300トから昨年は約3千トに増えた。



「大豆を送っても、被災地では調理が難しい。中田が思い付いたのは、豆腐を作り、被災地に届けることだった。『イグアス産大豆の良さを日本に知ってもらいたい』。福井ら日系農家が大豆100トを無償で提供。他の日本人移住地からの募金を、製造や配送の費用に充てた。

「スーパードライのよりおいしい」と声が上がった。今年に入り、目標の100万丁を達成した後、も、「原料がある限り」と、仮設住宅などに配り続けている。2月にイグアスで開かれた豆腐支援活動の報告会。これからは日本国民と損得を超えたお付き合いを、祖國日本をまっすぐお祝いします。日系人と自身の苦勞を思い出した、中田の言葉が詰まる。集まった移民1世3人も目に涙を浮かべた。

「大豆を送っても、被災地では調理が難しい。中田が思い付いたのは、豆腐を作り、被災地に届けることだった。『イグアス産大豆の良さを日本に知ってもらいたい』。福井ら日系農家が大豆100トを無償で提供。他の日本人移住地からの募金を、製造や配送の費用に充てた。

「スーパードライのよりおいしい」と声が上がった。今年に入り、目標の100万丁を達成した後、も、「原料がある限り」と、仮設住宅などに配り続けている。2月にイグアスで開かれた豆腐支援活動の報告会。これからは日本国民と損得を超えたお付き合いを、祖國日本をまっすぐお祝いします。日系人と自身の苦勞を思い出した、中田の言葉が詰まる。集まった移民1世3人も目に涙を浮かべた。



被災地への豆腐支援報告会で、裾を揺らして舞うパラグアイの伝統舞踊「タンサ・ホーシヤ(ポトルダンス)」を披露するイグアス移住地の少女。パラグアイ東部イグアス移住地

取材ノート

南米の日本人移住地には、われわれが忘れかけている伝統が今も色濃く残っている。イグアスを訪れたギアリンクス関係者を歓迎して、日系の若者らは獅子舞や和太鼓を披露した。もちろん、みな完璧な日本語を話す。獅子舞を踊れる若い人は現在の日本にどれだけのいるだろう。

一方、移住地を離れた日系人の中では、急速な「日本離れ」が進む。アルゼンチンの日系3世の少年に、知っている日本語を尋ねると、10秒以上考えた末に小さな声で「おしん」と答えた。

付加価値求め

迷いは震災で吹っ切れた「いざというときに頼れるのは、同じ日本人の心を持つ日系社会」。だからこそ、海外の日系社会と日本を結び付けていきたい。

ただ、事業を軌道に乗せるには、生産物に付加価値を付ける必要がある。「メード・イン・ジャパン」ではないが、「メード・バイ・ジャパニーズ」として味と品質が認められるのは、国産に近しい価格で売れるはずだ。これからは、イグアスの大豆を日本に売り込んでいく。(敬称略、文と写真・遠藤幹真 共同)